

## 第1回まちづくり検討委員会議事録

と き：平成21年8月11日（火）15：00～17：20

ところ：市役所2階第3会議室

### 1. 開会

- 市民協働推進課長

### 2. 市長あいさつ

- 市長

### 3. 委嘱状交付及び委員自己紹介

### 4. 会長及び副会長の選任について

#### 【事務局】

鳥栖市まちづくり検討委員会設置要綱第5条第2項に基づき、委員の皆様の互選となっております。皆様からご推薦をいただければと思いますがいかがでしょうか？

- 委員

事務局一任でお願いします。

- 委員

異議なし。

#### 【事務局】

事務局一任ということでございますので、事務局案として委員長には学識経験者として入っていただいております加留部委員様、副会長については区長連合会から選出されております小石委員様にお願いしたいと思いますが如何でしょうか？

<「異議なし」と発言する委員多数、委員全員の拍手あり>

#### 【事務局】

ありがとうございます。全会一致で会長・副会長が選任されました。

### 5. 会長・副会長あいさつ

- 加留部会長
- 小石副会長

### 6. 委員会の公開について

- 会長

事務局からご説明をお願いします。

#### 【事務局】

資料3 説明

○ 会 長

何かご意見などありますか？

<発言するものなし>

○ 会 長

ではこの手続きに沿って次回から公開することとします。

## 7. 議事

○ 会 長

それでは議事に入っていきますが、今回はまちづくり検討委員会を設置することになった背景や、現状を共有しておこうということが大きな目的。また委員の皆様はさまざまな背景・お立場・地域の違いがあれども、この委員会では鳥栖市全体のことをお考えになっていただくことを前提としてほしい。まず全体像を把握して、こんなふうが違うのか、あっ、そういうことだったのかと正確にご理解いただくことがこれからの時間。ではまずは鳥栖市現状について説明をお願いします。

### (1) 地域の現在の状況について

#### 【事務局】

#### 資料4 説明

○ 会 長

ありがとうございました。なんとなく感覚でうちの町は高齢者が多いなとか、子どもが多いなとかありますが、このように数字で見えますと、そうだったのかというものがあったり、同じ地区であってもバラツキがあるということを押さえておきたい。気を付けておいていただきたいのは、これは「現状」です。10年後はどうかということを少し想像していただきたい。さらに新しい人が入ってきたり出入りがあること、現在の方たちが確実に年を取ること。10年後の「現状」を想像しながら議論を進めていただきたい。せっかくの機会だから皆さんに感想をお聞きしたい。

○ 委 員

少子高齢化を改めて感じた。高齢者の会食会への参加数が増えた。高齢者が増えたのは間違いない。

○ 委 員

私の地区は壮年層が少ないのではないかな。

○ 委 員

私が鳥栖市に住んで33年。33年前に比べると高齢者が増えた。子どもの数は3分の1になった。鳥栖市も高齢者の市になった。

○ 委 員

新しい町には子どもが多い。空き家や独居老人は増えている。

○ 委 員

独居老人が多いのにはびっくりした。企業が撤退すると地区によっても影響があって差が出

る。

○ 委員

新しい町には高齢者は少なく、昔の町には高齢者が多い。10年後は子と老人は増えるだろう。私の周りでは子どもは多い。

○ 委員

私も同じようことを感じた。昔からある町は人口も増えず、少子高齢化がどんどん進む。それを解決する方法は簡単に考えれば、新しい住戸が増えればいい。だが、そうはうまくはいかないので、いろんなことを考えなければならない。

○ 委員

小学校の入学生は旭小が最も多いが、町区では子どもは減っている。

○ 委員

私が住んでいるところは農家が多い。農家が高齢化してきて田んぼを潰して住宅を建てる。そこに新しい人たちが入ってくる。そうした混雑したところに住んでいる。新しい町には子どもが多く、古い町には子どもが少ない。今後10年間もそうなるのか？

○ 委員

10年前とはどう変わったのか。10年前の数字と比べればうまくいっているのかも。

○ 委員

基里地区は農村地区で三世代家族が多い。用地が規制化されて簡単に家が建てられないことから保守的なところもある。全体を見れば鳥栖市の人口は漸増している。鳥栖市が成長していると見るのは危険だ。高齢化という問題は（若い世代の人口流入が続く）弥生が丘という地区のおかげで目隠しされている。

○ 会長

他の自治体は、人口は減る、高齢化は進む、という危機的状況の中で鳥栖市は珍しく人口が増えていることで免罪符のようになりつつあることに注意しないといけない。

北九州市の折尾地区で、「学生の街」ということで若者のまちづくりを進めていたが、10年後の人口動態を見たら、見事に高齢化が進むことがわかった。誰を対象にサービスしていくのか、誰がまちづくりの主体にならざるを得ないのか、気付かされたことがあったことから、ここでも10年後はどうなるだろうということで投げかけてみた。まず全体のことを見据えてみたい。今のところ合併もないのであれば、この体制で進まざるを得ない。その状況をまず十分に踏まえていただきたい。この資料4はときどき振り返って見ていただきたい。

では、現在の鳥栖市のまちづくりの概要を事務局から願います。

## (2) 地域づくりの概要について

### 【事務局】

資料5、6 説明

○ 会長

ありがとうございます。まずは質問をお受けしたい。言葉や全体的な状況については私の方からも解説を加えさせていただく。

○ 委員

公民館や老人センターは、ハード・ソフトの両面で活動拠点としてなり得るのか？

○ 委員

「協働」という言葉は基礎になる言葉だが、皆さんは理解されているのだろうか？

○ 委員

初めて「協働」という言葉を聞いた。まずそこから解からない。

○ 委員

「公共のサービス」とはどの部分を言っているのか？

○ 委員

何のためにやるのか？今の組織でダメなのか？ダメなら何がダメで何のためにやるのか？出発点を説明していただかないとよく解からない。

○ 委員

これからの公民館のあり方はどうなるのか。これまでは縦割りで学校教育、社会教育は別個に動いている。これからは学校・家庭・地域のネットワークが図られ、最終的には公民館に落ち着いてくると思うので、体制の再整備が必要。

○ 委員

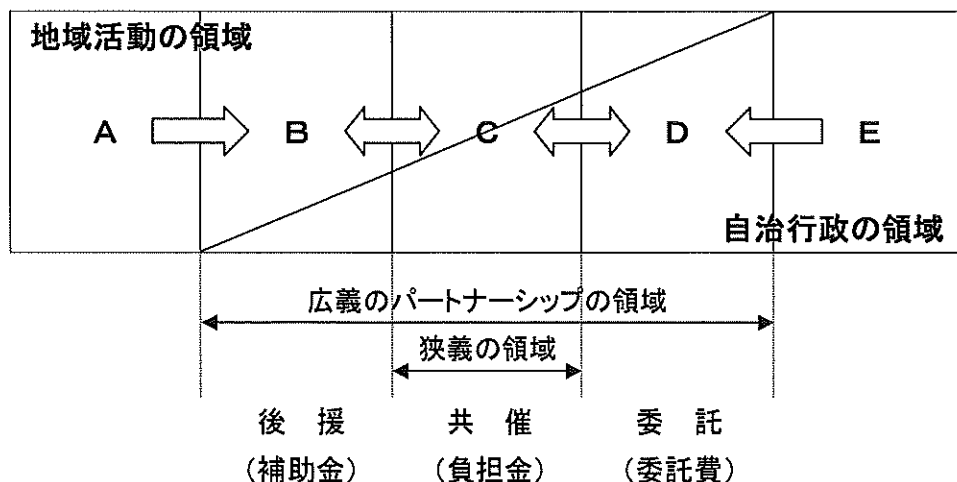
協働のメリットばかりが言われるがデメリット・弊害は？

○ 会長

では「協働」から。全国では「協働」が一般的だが、「共働」という言葉もある。福岡市、古賀市、福津市、豊田市、対馬市では「共働」を使っている。平たく言えば、一緒にやろうということだが、やり方には幅があるということを知っておいてほしい。

(下図を参照しながら) Aは役所から支援されなくとも、地域で、自分たちでやれる部分。反対にEは地域の力を借りなくとも役所ができる部分。これらは地域・役所がそれぞれやればよい部分。これからの公共サービスの真骨頂といわれるところはB・C・D。行政に近いところから説明すると、Dは行政でやっている仕事をほぼそのままやってください、という部分。これが「委託」。逆にBはみなさんがやっている活動をほぼそのままの状態、役所は応援しますよという部分。これは「補助」。行政の中では行政がやったほうがいいのか、地域に任せよう

【図】協働の5つの段階 (出典：日本NPOセンター・山岡義典氏による)



がいいのか、一緒にやった方がいいじゃないか、というふうに公共サービスを「仕分け」をしなきゃいけない時期に入っている。Cの部分は何かというと、役所も地域も人も出すし、金も出す、知恵も出せば労力も出す、お互いに負担しあう「共働」。究極の協働はこのCの部分である。とても悩ましいのは公共サービスの「仕分け」をどうするか。歴史を遡ればかつて民間でやっていたものを結果的に行政が行うようになったものが圧倒的に多い。例えば教育の分野では、学校の先生。昔の寺子屋は寺の坊主や庄屋さんが先生をやっていた。消防もそう。町人が「町火消し」を担っていた。道を作る、橋を架けるというのも、「道普請」というのがあって民間が作っていた。このようにかつては地域でやっていたものが一旦行政に移り、回りまわって再び地域に戻ってくるものが出てきつつある。ややこしいのは昔からのものがそのまま残っているだけでなく、時代とともに新しい公共サービスが次々生まれ多様多彩になっていること。これをどうするかが問題だが、まずは協働と言うのは幅があるということと、「一緒にやろう」ということ。ただ、誰がどっちのためにやるのかというのがミソ。「協働」はAさんがBさんに協力を求めるやり方。願するAさんの意向が強くと働く。「共働」はAさんBさん双方向の関係で、もともと「共」の字は大事なものを恭しく頭の上に挙げるという意味。まあ言葉の意味はともかく、まずは「一緒にやる」という考え方。

公民館は生涯学習の拠点として整備されてきたが、かなりの自治体で条例を改正して、2番目の目的としてコミュニティの支援が位置づけられてきた。それが今はひっくり返った。コミュニティ支援が1番で生涯学習の拠点が目的の2番になった。教育委員会の所管から外れるものも多くなったのがこの数年間の大きな動き。地域によっても公民館のあり方に大きな違いがあるが、鳥栖市にとって公民館はどうあるべきかという問いかけを市民に逆に投げかけなければならない。

コミュニティのもともとの意味は「ともに重荷を担い合う」。お祭りのときの神輿を考えてみるとよい。

次に、鳥栖市のこれからのコミュニティの考え方を事務局から説明してください。

#### 【事務局】

まずは単位自治会や単位団体を否定しているわけではありません。それは基礎として今までどおりやっていただきます。ただ広域で対応せざるを得ない諸課題、例えば防犯マップを作るときに小学校で作ります、PTAで作ります、〇〇町で作ります、という事業を今までできています。ひとつの町区だけでなく別の町区を通ったりしますので、小学校区という広域で対応して、より効果的なものを生み出すための組織を考えています。それによりお互いの連携も深まりや人材育成にも繋がっていくというイメージを持っています。

それと行政にもついてまわりますが、縦割りのやり方を横割りに変えたいと思っています。皆様も横の連携を取ってみてください、という思いがあります。大きくはこの2つです。

#### ○ 会長

この問題は鳥栖市だけでなく日本全国すべての自治体が悩んでいる。鳥栖市は鳥栖市なりの方向付けができればいいなと思っている。ですから率直に、遠慮することなく、お立場を越えてご意見を出していただきたい。私も何がベストなのかわからない。あちこちの事例を聞くことはあるし、私も取り組んだこともあるが、最後は地元の方の力に委ねざるを得ないので、み

んなで考えていきたい。

デメリットという話があったが、具体的に何がデメリットなのかまだ生まれていない。本当の意味での協働をやっているところが少ないので、まだ手探り状態。

○ 委員

私の組織は今まで上意下達。皆仕事を持ったなかで活動しているので、自主的に取り組むための「人」がいるのか？「時間」はあるのか？新しい組織は自治会の上に作る組織、区長さんたちが何と言われるか・・・。

○ 委員

このような会議は行政主導型になりがち。会長自ら白板に書いていくのは未だかつて見たことない。普段の会議は意見を言い合い、事務方に投げる。後の議事録で「前はこういう内容でした」と文章でまとまっている。振り返ると前回の会議は何だったかな、というのがよくある。

このコミュニティの件については、問題がいっぱいある。私はこのような組織を立ち上げるためには「人」と「カネ」をくれとはっきり言っている。どういう意見でも言いたい放題出しながらベクトルをあわせて行きたい。

○ 会長

鳥栖のローカルルールもあるだろうが、一番大事なことは議論すること。シャンシャンでは終わらせない。ここに来た方には必ず一言は発言してもらおう。ここが元気に活発にやっていると事は進まないし、もめることがあってもいい、それくらい出し切って初めて納得できる作業も出てくる。中途半端に出すと議論はどうにもならない。ああ、またどこかで譲ったなという形で終わってしまう。自分の街だから自分たちで考えないと、他人様は何もしてくれない。鳥栖市のことは鳥栖市で考えないと・・・。

○ 委員

私の団体も厳しい状況がある。やろうとすることが末端の人まで伝わらない。まちづくりという大きなことをどう伝えていくのか漠然と不安がある。

○ 会長

まず、私たちから伝えましょう。私たちから始めましょう。まず自分です。

○ 委員

私の団体も3地区のみになってしまった。これからどう繋いでいくか少し不安がある。まず組織を立ち上げてもらうのが大事だと思う。

○ 会長

その不安はひとりだから不安であって、だから共に重荷を担い合うコミュニティにならない。

○ 委員

今の組織じゃなぜダメなのかというのが私の頭の中にもある。他の町区や団体をまとめた組織では痒いところに手が届くのかなという思いがある。

○ 会長

今の組織で大丈夫なのかという議論もある。

○ 委員

私は区長や青少年育成など50年近く色々な組織に携わってきた。私の考えは逆で、今のままでは組織がダメだ。コミュニティでしっかり支え合っていないといけない。その拠点は公民館しかない。カネがないから建物を建て替えることはできないので、今の建物でどうやっていくのか、この委員会で話し合っていきたい。

○ 委員

大変な仕事を引き受けた。今後勉強していきたい。

○ 会長

私たちには知らないことが多すぎるので、少しずつ交流し合ったり、学び合ったりしながら、だんだん解かってくるが出てくる。

○ 委員

資料によれば新しい組織は今の組織と変わらない。各町に区長がいて、区長会がある。私の組織は地区で毎月1回会長会があり、話は色々出るが、話を聞くだけ。

それと民生委員会などとの横の繋がりはほとんどない。区長と話をすると同じ町内なので、「区長会ではこんな話が出たよ」と教えてくれるけど、だからといって我々から区長会に色々言うところまではいってない。そうするとこういう組織が一緒になれば、横の話し合いや連携、コミュニケーションが取れる。これはいい事だと私は思う。

ただ、問題がはっきりしないことには解決はできない。まず問題点を先に出さないことには何もできない。市としてはほかに問題点がいっぱいあるのだろう。そういう問題を色々出してもらって私たちで話し合っ決めていけばいい。

○ 会長

よく「ネットワークを作しましょう」という話になるが、「ネット」はできるが、集まったところで「さあ何をしましょうか」ということになり、「ワーク」(課題)がない。まず課題を見つけて、それを解決するために、どういうネットを張るのか、どういうメンバーでやるのかを考えていくと、このあたりが整理できるのかもしれない。

○ 委員

自分は20年ほど今の組織に関わっているが、今までの活動がこの会議に活用できるのか不安だ。

○ 会長

あせらず、あわてず、あきらめずにがんばりましょう。

○ 委員

漠然と横の繋がりがいいのかなと思っていた。若者も真剣に考えていることを伝えていきたい。

(3) 今後の委員会のスケジュールについて

○ 会長

今後のスケジュールについて事務局お願いします。

【事務局】

資料7 説明

○ 会 長

先進地視察は9月29日で決まっているのか？

【事務局】

はい。

○ 委 員

先進地視察の時間は？

【事務局】

昼から3時間くらいを考えています。

○ 会 長

タイトな部分もあるが、万障お繰り合わせの上参加していただきたい。地域や組織で意見交換する中で、不安や周りの方の意見を聞きたいとかあると思うので、そういうものを持ち寄っていただきたい。このメンバーだけに留まらず広く市民全体で議論して、我々の役割を担っていけばと考えている。何よりも皆様方の力がないと進まないなので、ご協力を切に願ひまして今日は終わりたい。

(終了 17:20)